



デジタルエンタープライズ のための無制限の ストレージ

Scality発表資料



企業の皆様は是非お読みください

デジタル革命がすべての業界に影響を与えている現在、企業のIT部門は多くの厳しい問題を抱えています。その主な原因は、多くの場合、現行のストレージインフラがデジタルエンタープライズのニーズに対応できないことです。

では、どうすれば良いのでしょうか？ 本書では以下を検討し、成功への道筋を示します。

- > 企業ITの機能に対して新しい需要を生み出す要因
- > 現在のストレージアーキテクチャの限界
- > 変革を促すソフトウェア・デファインド・オブジェクト・ストレージの将来性
- > 企業ITのニーズを満たす上で、Scalityの市場をリードするオブジェクトストレージプラットフォームの役割

「あらゆる業界の企業IT部門にとって、オブジェクトストレージプラットフォームへの移行は、瞬く間に優先事項となりました。」

デジタル変革に必要なもの

デジタル変革の波は、すべての市場のすべての企業に影響を及ぼしています。技術の変化がビジネスを急速に変化させ、IT部門に対する新しい需要を生み出しています。

データが増え続ける

デジタル革命によって、企業内で管理および保存するデータの量は大幅に増加しています。

革新への注目度が高まる

ディストラティブな市場の変化に遅れないよう、企業はこれまで以上に革新を重視しています。IT部門にはシステムを稼働させるだけでなく、革新に貢献することが期待されます。

インハウスアプリが増える

アプリの重要性が増し、IT部門が競争上の利点の源として注目されるにつれ、企業は独自の知的資産 (IP) を構築しようとし、インハウスアプリの開発が大きく増加しています。

スピードの必要性が高まる

多くの業界で変化が加速するにつれ、市場化期間が圧迫されています。ITチームには、新しいことをするだけでなく、そのスピードも求められます。

システムの露出が増える

「Everything-as-a-Service」のトレンドは、ITをどのように利用するかだけでなく、顧客に何を提供するか点において、企業の考え方を変えつつあります。すべてをサービスとして提供すれば、企業システムのより多くの部分が外部ユーザーに露出されます。

期待が増える

ITのコンシューマライゼーションにより、ユーザーの期待が高まり、従業員と顧客の体験が重視されています。今では誰もが、アプリやデータに即座に常時アクセスできることを期待します。

パブリッククラウドの問題

上記すべての需要に加え、パブリッククラウドサービスが新しい前提を作っています。

- > **財務部門**：クラウドストレージの見積もり料金を見て、なぜ社内ITのほうがコストが高いのか疑問に思います。
- > **開発者**：新しいアプリを早く市場に出すという圧力の下で、新しい処理リソースやストレージを即座に利用することを望み、社内のITが迅速に反応しないことを不満に思います。
- > **ユーザー**：従業員も顧客も、常にアプリを利用でき、アプリがすぐに反応することを当然に思っています。同様に企業アプリが使えなければ、IT部門が責められます。

上記のすべてがIT部門に新しいプレッシャーをかけます。パブリッククラウドプラットフォームは、利点があるものの、すべての疑問に対する正しい答えではありません。



2億8,000万以上

2020年には、モバイルアプリの年間ダウンロード数が、インターネット接続デバイス数の4倍になると予想されています。これらのアプリがさらに多くのデータを生成します¹。



44ゼタバイト

2020年までに保存が予想されるデータの量²

これらすべての要因が
企業IT、特にストレージ
環境への新しい需要を
生み出しています

1 IDCのIoT/デジタルユニバース最新情報、2016年8月
2 IDCのIoT/デジタルユニバース最新情報、2016年8月

データは今や戦略的資産

データの量が増えるにつれ、ビジネスにとっての潜在的価値に対する認識も高まります。10年前、データ分析に真剣に投資していたのは、小売業者と少数のニッチ企業だけでした。今ではあらゆる企業がデータを戦略的資産と考えています。

データとIoTの出会い

データ分析とIoTテクノロジーの組み合わせは、データを利用して自動化、効率化を推進し、革新的な新サービスをサポートするという新しい目標を生み出します。

このためには、企業データを容易に利用、操作、集計、分析し、ビジネス上の意思決定に役立てることができなければなりません。

89%

業界で競争力を維持する上で、データへのアクセスが極めて重要だと考える企業幹部の割合¹

72%

データの利用拡大が自社製品やサービスを変えると考えている企業幹部の割合²

既存のストレージモデルの非持続性

現在、多くの企業で利用されているレガシーのストレージアーキテクチャは、デジタルビジネス用に設計されていません。重要な問題は以下のとおりです。

- > **サイロ化され、断片化したインフラ**：管理が難しく、かなりの管理コストがかかります。企業はデータ全体を把握できず、データ駆動型の新しいインサイトを十分に引き出せません。
- > **高価で非効率的なストレージ技術**：データ量が増えるにつれ、多くの予算を消費し、新しい技術への投資が難しくなります。

70%

ストレージ支出が今後12カ月で増加すると予想するIT担当者の割合³

- > **拡張不能**：数年ごとに大型アップグレードを繰り返すのは負担が大きく、ビジネスの成長を妨げます。

3年

従来のストレージベンダーがビジネスの基盤としているストレージハードウェアの交換周期

- > **現代的なインターフェースのサポート不足**：S3やOpenStackに対応しない、あるいは新しいコンテンツタイプ（動画など）の提供に必要な性能プロファイルを持たないことは、革新的な新サービスの開発に制限をかけます。
- > **ストレージプラットフォームの限界**：新しいアプリやワークロードの導入に長い時間がかかるため、ビジネスユーザーの不満が募り、シャドーITが増えます。
- > **システムを常時利用できない**：デジタルビジネスは、24時間年中無休で従業員や顧客のニーズに応える必要があります。つまり企業はインフラに膨大な冗長性を組み込むことになり、コストが増えます。

上記すべての点と現在の企業ITにかかる負担を考慮すれば、現在のストレージモデルは持続不可能という結論になります。

2016年、ストレージユーザーは「管理のしにくさ」を最大の課題に挙げました⁴

変革を促すオブジェクトストレージ

新しいタイプのストレージプラットフォーム、すなわちソフトウェア・デファインドのスケールアウト型オブジェクトストレージは、企業ITの足枷となっているレガシーストレージの問題を克服します。従来のストレージプラットフォームより有利な点は、以下のとおりです。

- > ペタバイトを超える拡張性
- > 大規模でも管理が容易
- > スタティックなデータと非構造化データの両方に対応する汎用性を持ち、1つのプラットフォームで新規とレガシーのアプリケーションを柔軟にサポート
- > クラウドに似たコスト効率
- > 高度なシステムセキュリティと信頼性
- > 幅広い互換性によるハードウェア選択の自由

80%超

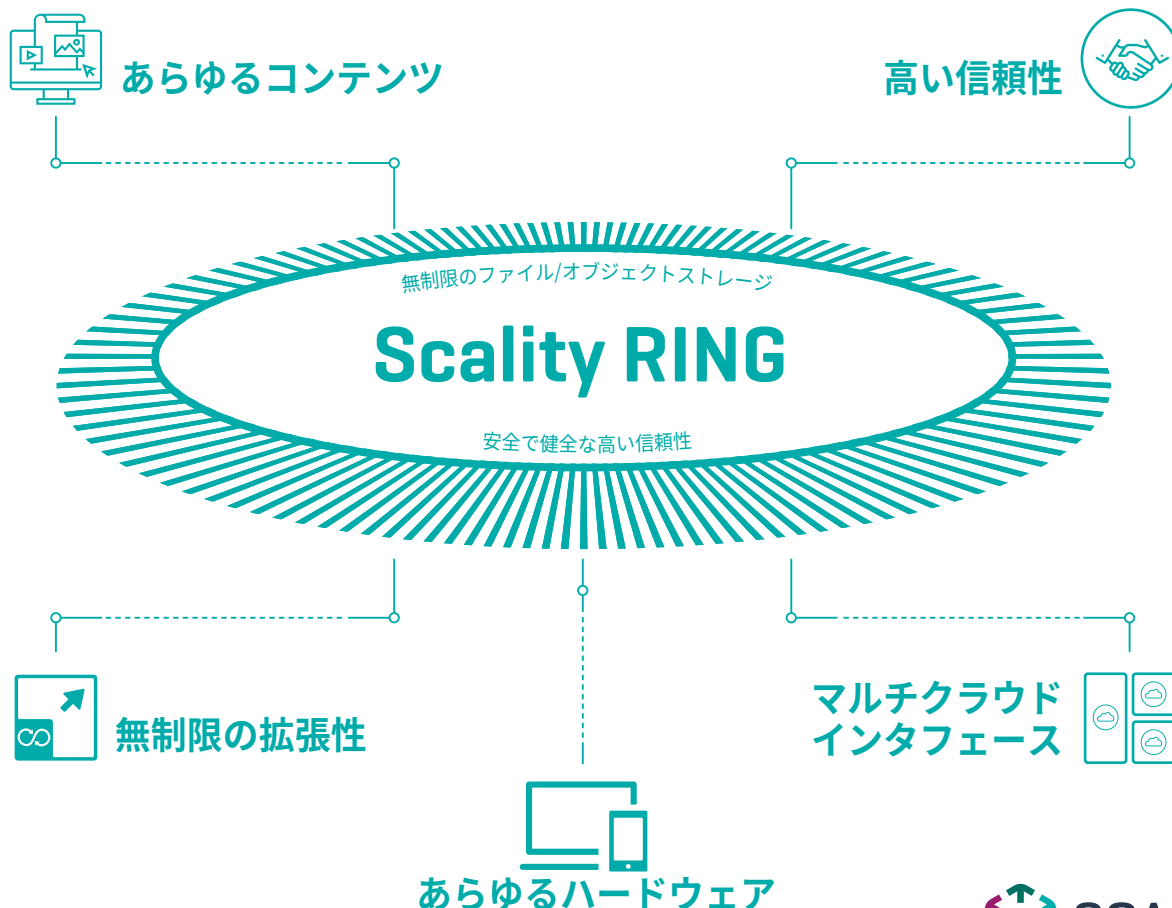
2021年に企業/クラウドデータセンターのスケールアウト型ストレージに保存されるビジネスデータの割合(現在は30%)⁵

Scality RINGの優れた点

Scality RINGは、市場をリードするオブジェクトストレージソフトウェアであり、任意の標準的なx86サーバーを用意すれば、ウェブスケールなストレージに変えられます。RINGがあれば、企業はどんな量のどんな種類のデータでも卓越した効率で保存できます。

Scality RINGには、大きな利点がいくつかあります。

- > **あらゆるコンテンツ** – 1つのプラットフォームで、レガシーとデジタルのすべてのコンテンツにアクセス、保存、管理。Scality RINGは、ファイルとオブジェクトの両方をネイティブサポートする唯一のストレージプラットフォームであり、ストレージの柔軟性を最大化します。
- > **あらゆるハードウェア** – ハードウェアは完全に自由であり、任意の標準的なx86サーバーを利用できます。
- > **マルチクラウドインタフェース** – 実証されたストレージ基盤によりパブリックまたはプライベートクラウドサービスを提供し、Amazon S3とOpenStackの両方に互換性を持つインタフェースで最大限の柔軟性を提供します。
- > **高い信頼性** – シェアード・ナッシング・アーキテクチャは単一障害点の心配のないシステムを作成します。
- > **無制限の拡張性** – 何百ペタバイトにも拡張し、何十億もの大小ファイルを管理可能です。



Scality RINGによる無制限のストレージがデジタルエンタープライズに適切である理由

Scality RINGは、現代のデジタルエンタープライズとそのITチームにとって全面的に有利です。



ストレージコスト削減で予算にかかる負担を緩和

Scalityの革新的技術とパートナーによる総合的な販売サポートは、企業のストレージとレガシーサポート契約の両方のコストを引き下げます。これにより、新しい技術に投資する予算とリソースが生まれます。

当社の最新技術の主な利点は以下のとおりです。

- > ストレージ効率を大幅に向上
- > 専用的高密度x86サーバーでハードウェアコストを削減
- > 同じシステムで新規と既存のハードウェアの柔軟な混用が可能
- > 複数のワークロード（複数の場所にある場合でも）を同じストレージプラットフォームに統合し、コストの高いレガシーシステムと差し替え
- > バックアップの必要を解消
- > ストレージエリアネットワーク（SAN）コストを削減
- > 従来のストレージよりストレージ経費を大幅に削減



コンプライアンスを改善し、シャドーITのリスクを削減

企業によるプライベートクラウドの構築を可能にすることにより、Scalityはデータを「ファイアウォール内」に入れ、何のデータがどこにあるかの可視性を高めます。

複数の場所にある複数のサイロを1つのプラットフォームにまとめるScality RINGも、データのロケーション管理を確立し、データ主権要件へのコンプライアンスを容易にします。

さらにScalityに最初から統合されているファイルコラボレーション/同期・共有ソリューションでは、Scalityに加え、セキュリティとコンプライアンスを確保しながらDropboxのような機能を利用できます。

開発チームがパブリッククラウドプラットフォームで独自の環境を構築する必要はなく、Scalityは低コストでS3互換のストレージを提供します。



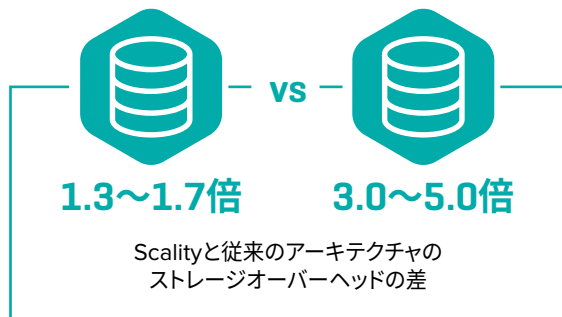
ITチームの負担をなくして革新を推進

レガシーのストレージシステムより大幅に効率が高く、管理の容易なScalityにより、ITチームは既存のシステムを維持する作業から解放されます。

複数のサイロを1つのプラットフォームにまとめれば、管理者の負担は大きく減り、複雑化や労力の重複も抑えることができます。Scality RINGのセルフヒーリングアーキテクチャも、ハードウェア障害の影響を軽減します。メンテナンス作業は緊急扱いではなく、都合の良いときに予定できます。可用性への影響もありません。

多くの一般的なストレージ最適化がRINGスーパーバイザGUIを通じて自動化されるため、世界に分散した大規模なストレージ業務も簡単かつ高いコスト効果で管理できます。

Scalityクラウドモニターは管理をさらに容易にし、企業のRINGオブジェクトストレージプラットフォームとS3に最適化したScality製品を即座に年中無休で監視します。直感的なダッシュボードは、イベントを可視化し、設定をサポートするほか、システムの健全性チェックや異常なKPI値を知らせるアラーム設定機能も装備しています。Scalityクラウドモニターは、ストレージ環境をリアルタイムでリモート監視し、ストレージシステムが最適化されるよう予測的な分析を生成します。



Scalityの2010年の最初のお客様であるTelenet社は、複数世代のアプリケーション、ハードウェア、RINGを7年以上もダウンタイムなしで稼働させています。



機敏性と応答速度の向上

スケールアウト型ストレージプラットフォームへの移行は、インフラ整備に対するまったく新しいアプローチであり、新しいビジネス要件への反応を大幅に加速します。

従来のモデルでは、新しいワークロードのサポートが必要になるたびに新しいアレイやスタックが必要となり、ハードウェアのリードタイムによる遅れが生じていました。企業は時間的余裕を持って計画しなければならず、「もしも」のことを考えてプロビジョニング過剰になることもありました。

Scalityなら容量の大幅な拡大で新しいニーズに対応する必要も、1年前から準備する必要もありません。既存のインフラを再利用し、必要なときにディスクや標準的なx86サーバーを追加するだけです。



データのアクセス可能性と可用性を常に確保

クラウドと同様の効率性を備えたScalityでは、少ないコストで多くのデータをオンラインに置き、アプリからアクセス可能にすることができます。複数のデータサイロを1つのプラットフォームに統一するため、データを集計し、まとめて分析することも容易です。

標準規格に基づくインターフェースとマルチプロトコルファイルのサポートが新しいアプリの開発を簡単にし、既存のデータストアからさらなる価値を引き出します。

さらにScalityの幅広いISVパートナーエコシステムが、分析、バックアップ、アーカイビング、メッセージング、ビッグデータ、コンプライアンスなど幅広いアプリケーションをサポートし、データ資産の価値を最大化します。

シェアード・ナッシングの分散アーキテクチャを持つScalityは、厳しいSLAと内蔵のディザスタリカバリ機能に支えられ、100%の可用性を保証します。

Scalityイレージャーコーディングと可変レプリケーションCoS (Class of Service) は、データをハードウェア障害から隔離し、複数のディスク/サーバー障害が同時に生じてもデータを守ります。さらに、保存したオブジェクトに対するCRCチェックサムがデータの完全性を保証します。



移行のリスクと業務中断を最小化

Scalityは、幅広いパートナーエコシステムとともに、オブジェクトストレージへの移行のすべての段階をサポートし、リスクと中断を抑えます。サポートには以下が含まれます。

- > 移行計画と実行に関するプロフェッショナルサービス
- > 完全なアプリ移行のサポート
- > 新しい技術に対してお客様スタッフ教育のための情報提供と有料エデュケーションサービス
- > リスクを削減し、スピーディーに価値を得るための概念実証サポートとリファレンスアーキテクチャ

シームレスな移行を支えるScality RINGの独自の機能には、以下があります。

- > ファイル、オブジェクト、OpenStackストレージのサポートにより、非構造化データタイプと複数のアプリケーションをScalityに移行可能
- > 完全なS3互換性とMicrosoft Active Directory/AWS IAMのサポートなどにより、新規および既存アプリケーションの統合が簡単



800万ドルの経費節約 - 229%のROI

2016年、フォレスターの「Total Economic Impact (TEI)」調査はScality RINGと従来のNASストレージアレイの利点に注目。2ペタバイトの顧客が4ペタバイトに拡張した場合、Scality RINGはストレージの使用期間全体で800万ドルの経費節約（資本節約だけで300万ドル以上）と229%のROIを実現することを実証。また、わずか6カ月で投資を回収。

Scalityについて

Scalityは、ペタバイト規模でソフトウェア・デファインドのマルチクラウドデータストレージを提供する革新的な企業です。IDCとガートナーが認める分散型ファイル/オブジェクトストレージのリーダーとして、データの制御および複数のクラウドでデータを管理する自由を保証します。Scalityの製品は、ニーズに応じて中断なく拡張や縮小が可能であり、現代の大手企業のコスト削減に貢献します。

ガートナーの「分散ファイルシステムおよびオブジェクトストレージ分野のマジック・クアドラント」レポート (無料) をご覧ください。



ガートナーの「分散ファイルシステム
およびオブジェクトストレージ分野の
マジック・クアドラント」レポート
(<http://bit.ly/2ip1NSh>)



8,000億以上

Scalityが管理するオブジェクト数



クラウド150以上

Scalityのクラウド実装数

Scalityの最新情報は、
LinkedIn、Facebook、
Twitterでお届けして
います。Scalityのソフト
ウェア・デファインド・
オブジェクト・ストレージの
詳細は、Scality.comを
ご覧ください。

